慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	メインバンク取引関係形成過程についての一考察
Sub Title	
Author	園信二(Sono, Shinji) 青井倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第850号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0850

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No.850

学生氏名　園　信二
（株式会社　第一勧業銀行）
主査　青井　倫一
副査　古川　公成
森川　英正
所属　青井　倫一　研究室

メインバンク取引関係形成過程についての一考察

本研究は、わが国中堅中小企業の財務的側面からみた企業の成長は、事業資金の融資を中心とした企業と銀行との取引関係の形成過程と密接不可分に結びついているとの基本的認識のもとに、中堅中小企業分野における企業と銀行との取引関係の態様を企業の成長段階に沿って分析し、メインバンク取引関係の成立・拡大・変更という視点から再構成することを試みた。

企業とその企業毎に特定の銀行とのメインバンク取引関係は、企業が成長期における経営の節目に際して企業の存続にかかわる資金調達行動に立ち上がり、それを受けて銀行が融資の実行を応諾する、という企業と銀行双方の積極的行動の結果成立することが観察された。

さらに、一般的に考えられているほど中堅中小企業と銀行とのメインバンク取引関係は長期安定的なものとはいえず、成長期の企業においては、企業を取り巻く経営環境の変化や業績の悪化というマイナスの情報に接したとき主として従来のメインバンクが企業を見放すという形でメインバンク取引関係が消滅する可能性があること、また、安定期再成長期の企業においては、銀行に期待する機能の多様化高度化等の企業ニーズを満たせない銀行が激しい銀行間競争の結果メインバンクの地位を他の銀行に奪われる可能性があること等を指摘することができた。

そして、企業の各成長段階に対応したメインバンクの備えるべき機能、取るべき取引手段の提示を行った。

しかし、企業の成長戦略における財務要因のウエイトの高さによってメインバンク取引関係形成過程に対する企業側の主体的な取り組み方には格差がみられ、メインバンク取引関係の強さをもって一般的に企業財務の健全性や資金調達力の指標として再構成するのは困難であると思われた。